

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みらい創生学園神辺校		公表日		年 月 日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・学習室・プレイルーム及び畑があり、多様な学習形態が設定できる。 ・集団支援と少人数支援を構造化している。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		6		・基本定数とともに、加配しよくいんも配置し、手厚い対応を行っている。 ・児発管も支援に参加している。	・人数や個別の状況によって異なるが、支援形態や課題によって多様化を図る必要がある。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5	1	・基本的には、バリアフリー化しており、フロア一事に活用設定をしている。 ・沢山の教材・教具を準備している。	・活動に使う物の整理、置き場所の固定、子供が使いやすくする。 ・運動する部屋の片付け・活用。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5	1	・毎日清掃・除菌をしている。よだれ・トイレの失敗等もあり、清潔な環境保全に心がけている。	・タオルをごまめに変えるか、個人個人で持ってきた方がいい人がいる。 ・プレイルームの整理整頓・構造化。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		・教室の構造化により、多様な使い方ができるように工夫している。 ・相談室等の利用も状況に応じて対応する。	・タブレット等の利用ニーズが高まり、有効な利用に向けて、構造化を進める。 ・個別支援・クールダウン等の利用。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・毎日の気付きや打ち合わせはしてはいる。 ・お互いの気づきや見方・考え方を出し合い、業務改善を推進している。	・積極的に業務改善に向けた、環境づくりが課題である。 ・声掛けや聞き取りを増やしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・モニタリングや保護者相談等を積極的に行い、相互の関係を深める様進めている。 ・送迎等でも意見や感想を大切にしている。	・細かい評価や対応について、把握できていないこともある。 ・送迎等で把握した、意見を反映する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・日頃から職員間での意見や感想を把握し、伝わりやすい環境を作っている。 ・打つ合わせで、確認・連絡等を進める。	・障害の状態や発達段階の把握、健康面での実態把握を丁寧に進める。 ・風邪・インフル・ノロ等の迅速な把握。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	・第三者評価は実施していない。しかし、事業所の課題や方向性について、専門家等に相談し、業務改善に意見を頂いている。	・今後において、第三者委員会の設立を視野に、適切な業務改善を進める必要がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・基本的な研修・演習等を実施するとともに、職員間での経験や知識等の共有を図る。 ・常勤非常勤とも、時間を十分確保する。	・非常勤ですが、よく分からないので研修をもっと多くあればと思う、園長の話を知りたい。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・本学園の支援プログラムを作成し、具体的な支援内容を盛り込んでいる。 ・わかりやすい表記で、公表している。	・支援プログラムの内容については、具体的な支援手立てを明示し、カテゴリー別に精査していきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	1	・モニタリングや保護者相談等を積極的に行い、支援内容に生かしている。 ・職員間で多様な分析をおこなっている。	・十分な保護者等のニーズや課題を分析できていない面もある。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・自発管を中心に、サービス計画を作成するが、多くの職員の意見を聞き取り、計画書の中に盛り込んでいる。	・十分な意見交換ややり方・手だての工夫を考える必要がある。 ・職員の理解向上を常に図る必要がある。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・支援計画に従って、日々の支援内容に反映するように心がけている。 ・状況の変化にも、十分対応できる。	・支援内容の共通部分と個別の支援があり、曜日や利用者のニーズに応じた支援となる様に、十分な準備が必要である。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		・個別のアセスメントをもとに、行動観察やコミュニケーション等を把握し、状況の変化や発達段階に応じた支援を行っている。	・保護者連携により、フォーマルアセスメント及びインフォーマルアセスメントを参考に、十分吟味して支援を進める。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容については、本人のニーズや保護者の願い等を参考に、個別の支援内容に項目別にブレイクダウンしている。 ・支援内容の具体化を推進している。	・障害の状況の変化を把握するとともに、発達段階を考慮して支援項目を設定する必要がある。丁寧な実態把握が求められる。 ・具体的な支援においては、段階的な手立てを考慮し、十分な時間設定をして進めるとともに、保護者連携を密に行う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・個別の支援計画を参考に、職員間で相談しながらチームで行っている。 ・自発管が中心となり、意見を集約する。	・職員は積極的で、経験が豊かなので、多様な立案が可能となっている。 ・今後も、特色のある計画を推進する。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムは多様性があり、集団・小集団及び個別のニーズに対応している。 ・曜日や利用者に応じて、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な支援を進めるために、職員間での連携が不可欠となっている。 ・始まりの会は、ワクワクドキドキです。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・上記でも述べた様に、支援プログラムは多様性があり、集団・小集団及び個別のニーズに対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階や学年が上がる状況で、支援形態や支援内容を工夫改善する必要がある。 ・支援計画に、的確に反映させている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の打ち合わせはしている。 ・チームでの連携・支援はできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童（小学生）に必要な支援（学習プリント）などを十分用意できればやりやすい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・片付け・送迎の終了後、職員間の打ち合わせを必ず行っている。特に、支援上の課題、保護者の願い、本人の変化を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの打ち合わせが、支援課題の把握とともに、次への手立てとなる様に、丁寧に協議を進めている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの打ち合わせにおいて、確認事項や課題については、日誌に明記している。 ・職員間でも、日々確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の改善に向けた、十分な記録が取れるようにする。 ・特記事項は、ホワイトボードに書く。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なモニタリングを実施するとともに、必要に応じて保護者等からの意見や希望を把握するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも相談や連絡ができる態勢を整える必要がある。 ・もっと的確で、十分な見直しを進める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの「4つの基本活動」をもとに、多様な支援内容を構築し、多様性のある活動内容を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習、遊び、キャリア発達等のカテゴリーをもとに、多様な発達段階・障害の状態に応じた支援内容を想像していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりの会では、基本メニューとともに自己決定場面を盛り込んでいる。特に、創作活動や運動支援で自己選択を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒自身が、みらいでの活動において自己選択しており、楽しみにしている。 ・もっと、メニューの充実を図りたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児相談支援事業所のサービス担当者会議においては、自発管及び管理者が中心に対応し、職員に周知を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業所の担当者が施設での状況確認をされる時、広範な連携を深めたい。 ・関係者会議では、家庭・学校等の連携。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関等との連携は、定期的な情報の共有を図り、学校・家庭等との連携は、日々の支援体制の中に組み込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関等からの今日的な情報はとても役に立ち、今後も連携を深めたい。 ・学校学童等との連携は、推進を図りたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・上記でも述べたが、授業・学校行事等との連携は、十分な確認・対応を計っている。 ・送迎等の連絡調整は、十分な確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等との相互連携の推進を図りたい。 ・不測の変更や流行性の疾患等も在り、不十分な時もある、十分な把握が必要である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解については、障害の状況の変化や発達段階等での情報共有を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援上の課題や状況の変化については、保護者の了承のもとに、連携を深める。 ・児童間での連携も大切なので行っている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業所では、卒業生（高等部・高校生）をまだ出していないので、具体的な項目はないが、卒業に向けた準備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力に向けた、生活力の向上や社会的スキルの向上を推進していく。 ・社会環境力の向上を目指している。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターとの連携については、障害の状況の変化や生活力の向上に向けて、助言やアドバイスを受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターとの連携は、療育支援等において、細やかな連携が必要となる。 ・ST、OT、PT等との連携の大切だ。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブや児童館との交流は、多くの児童が利用しているため、おおさつ、声掛けすることが多くある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学童での待っている時間に、他の児童等とあいさつしたり、話すことが多い。 ・公園等で一緒にになるくらい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や協議会には、日程調整を行い参加したり、情報共有をする努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務上の時間や調整等を行い、出来るだけ参加できるように努力する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対しては、定期的なだよりを配信し、送迎やお迎え等の場面で、共通理解を行っている。個別には、TELを利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な見直しや状況の変化は、出来るだけリアルタイムに共通理解を図る。 ・トラブル等は、即日対応を必ず行う。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や家族に対する広範な支援は、情報提供として、個別に相談支援することが多く、家庭状況も含めて支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援センターとも連携を図り、発達段階における支援や課題に対応していく。 ・協力医療機関との連携も模索する。 	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、契約時に重要事項説明書とともに、丁寧に説明するとともに、質問や対応上の課題にも、丁寧に説明を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には、時間をかけて丁寧に説明を行うように、日ごろから心がける。 ・変更や質問等についても、丁寧な対応。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等とのモニタリングにおいて、保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮して、状況確認を行い計画に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からは、出産時から今日までの、障害の状況の変化や発達段階の把握を進める。 ・親の願いや子どもの姿を大切に。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス支援計画をもとに、具体的な支援内容の説明を行い、特に支援のポイントについて時間をかけて同意を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス支援計画の変更点を、丁寧に説明することで、共通理解が図れる。 ・重点ポイントを明確化することが大切。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・保護者等からの相談やご質問は、丁寧に対応するとともに、話しやすい環境を作ることが、大切であると考えています。	・事前に、質問やご相談を受けることを、前知することを心掛けている。 ・保護者等が、相談で安心して頂くこと。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		・父母の会の活動や保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援を行っている。（高等部会） ・小中学生は、個別の相談が中心となる。	・保護者交流会は、情報提供だけでなく、お互いの交流が中心となる様に運営している。 ・学齢期の進路相談についても、保護の装弾が多くあり、柔軟な方向性について支援する
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・子どもや保護者からの苦情については、担当者（窓口）を定めて丁寧に対応している。 ・苦情がある場合は、文書でまとめる。	・日頃から生活面・学習面等、情報提供とともに、ご意見を聴く機会を増やしていく。 ・送迎等での咬きにも、耳を傾ける。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	・定期的に通信（みらいだより）等を発行するとともに、HPやSNS等を活用して、こどもや保護者に情報提供を行っている。	・「みらいだより」の内容の充実と特集をもち込み、魅力をさらに向上する。 ・なかなか充分とは言えないが取り組む。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報については、保護者と個人情報確認書を依頼し、個人情報の取り扱いについて、十分な確認を行っている。	・特に、個人情報の提供の場合には、再度確認することもある。 ・HP・SNS等のアップ時の確認。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・本人及び保護者への情報伝達については、コミュニケーションレベルに応じて、多様な方法で丁寧な対応を心がけている。	・文字や写真等を活用して説明するとともに、十分な確認をすることを心掛ける。 ・ご希望や要望等を聞く姿勢を持つ。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3	・地域に開かれた事業運営として、さんぼ活動において、あいさつや声掛けを取り組んでいる。	・今後の活動の継続とともに、地域イベントへの参加を模索していきたい。 ・地域のある道路や公園の清掃の参加。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・事故防止、緊急時対応、感染症対応マニュアル等を策定して、職員・家族等に周知するとともに、十分な研修・訓練を行う。	・各マニュアルの再検討及び修正を進めるとともに、内容の充実を図る。 ・危険個所の確認を点検していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・業務継続計画（BCP）を策定するとともに、長期的な視点に立ち、十分な安全と敏速な対応ができるように、研修・訓練を行う。	・業務継続計画（BCP）の再検討を図り、実働的な計画となる様に精査する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・服薬や予防接種、てんかん発作等の服用については、保護者と十分な連携を図り、指示書に応じて、確認しながら遂行する。	・服薬や予防接種、てんかん発作等の服用は、現段階では利用がないが、丁寧な対応を行い、必要に応じてマニュアルを作成する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		・個人情報確認書において、食物アレルギーのあるこどもについて確認している。医師の指示書をもとに、的確に遂行する。	・調理学習等において、十分な確認や点検を行い、安全第一の立場に立って遂行する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を実施するとともに、安全計画に基づいた点検・チェックを行う。	6		・安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を実施するとともに、安全計画に基づいた点検・チェックを行う。	・施設内外での遊具用のチェック・確認を丁寧に進める。 ・安全管理に関わる研修・訓練を実施する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を実施を保護者等に周知するとともに、情報提供を行う。	・保護者等との連携を図り、安全管理についての情報等を的確に把握する。 ・みらいだよりにおいて、情報提供する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	・毎日の打つ合わせ会において、ヒヤリハット事例の確認や対応を点検している。 ・その都度、的確に確認する様心掛ける。	・職員間の十分な連携が必要。 ・緊急対応等の十分な検討が必要。 ・ヒヤリハットは、文章でまとめる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・事業所において、虐待を防止するため、職員の研修機会を実施し、適切な対応が行われるように、指導・助言する。	・虐待防止項目を明確にする。 ・多様な研修機会を設ける。 ・虐待を起きた場合は文章でまとめる。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		・身体拘束を行うかについて、組織的に決定するとともに、的確な判断と対応を行う。 ・サービス計画に「身体拘束」を明記する。	・身体拘束を必要としない支援体制の構築 ・身体拘束をやむを得ず実施する判断 ・身体拘束実施の経緯と文章でのまとめ	